

会議結果報告書

1. 会議名 令和3年度 第1回 印西市環境推進市民会議・事業者会議合同会議
2. 日時 令和3年5月10日（月）9：30～12：00
3. 場所 市役所附属棟 23・24・25 会議室
4. 出席委員： 岩井邦夫会長、川井正幸委員、小山尚子委員、白川卓生委員、関根正明委員、橋本千代子委員、平林光子委員、福井章夫委員、村形彰治委員、山崎久恵委員、山田敏文委員、吉村仁委員、渡辺統之委員、乾真一郎委員、川村英雄委員、三輪隆委員

事務局： 板倉市長、土屋環境経済部長、環境保全課：飯島課長、海老原課長補佐、黒田係長、清田主任主事

5. 傍聴者 1名

6. 配布資料

- ・会議次第
- ・印西市環境推進市民会議設置要綱
- ・印西市環境推進事業者会議設置要領
- ・第3次印西市環境基本計画の策定基本方針（案）
- ・印西市環境基本計画（骨子案）現状と課題等
- ・印西市環境基本計画（骨子案）施策体系
- ・令和3年度 いんざい環境フェスタ（オンライン）について
- ・令和3年度 印西市環境推進市民会議・事業者会議合同会議開催スケジュール（案）

7. 内容

- (1) 開会
- (2) 委嘱書交付
- (3) 市長挨拶
- (4) 自己紹介
- (5) 会議の目的
- (6) 議事

- 1) 会長・副会長の選出について

事務局：議事に入る。環境保全課長が仮議長として進行する。

仮議長：会長・副会長の選出について、新たに会長・副会長に立候補、または推薦はあるか。

委員：前回および前々回の市民会議にて、会長を務めた岩井委員を会長に推薦する。副会長には白川委員を推薦する。

仮議長：ただ今の推薦があったが、異議がなければ、会長に岩井委員、副会長に白川委員として決定する。進行を事務局にお返しする。

2) 第3次印西市環境基本計画の策定基本方針（案）について

事務局：本日は、環境推進市民会議と環境推進事業者会議の合同会議であるため、慣例により市民会議の会長に議長を依頼する。

会長：第3次印西市環境基本計画の策定基本方針（案）について事務局より説明を依頼する。

—事務局より、第3次印西市環境基本計画の策定基本方針（案）について説明—

会長：事務局の報告、説明に対して何かあればお願いします。

委員：前回、市民会議が示した印西市環境基本計画案の作成に対する提案書についての回答をいただきたい。その中でも重要なものについて今から質問する。提案書においては、「印西市の強みであり、誇りでもある自然環境の保護・保全」を最重要課題の一つとして位置付けることをお願いしていたが、今回の策定基本方針（案）の「1 計画策定の趣旨」または「2 計画の位置付け及び策定に当たっての基本的視点」に全く記載されていない。開発により変わってきている現状に触れて、今後も、印西市の住みよい環境における大きな魅力である里山環境を守ることをしっかりと位置付けていただきたい。また、印西市はグリーンインフラに恵まれており、グリーンインフラの機能を生かすことについても入れていただきたい。

委員：地球温暖化の防止など、大きな問題を取り上げるのも結構であるが、印西市としての課題を環境基本計画の骨子にすべきと考える。例えば、小さなことであるが、不法投棄、ごみやたばこの吸い殻のポイ捨ての防止等が、この印西市の環境評価につながる。やはり、印西市独自の地に足が着いた計画の策定をお願いしたい。

委員：「1 計画策定の趣旨」にも「2 基本的視点」の中にも、印西市らしさである自然を守ろうという意味が感じられない。日本全国全ての環境基本計画に当てはまる文章となっている。地球温暖化の問題にも取り組みながら、身近な里山自然のことも印西市は大事にすると位置付けていただきたい。印西は自然空間の中に都市空間があり、元気に楽しく安全に暮らせるところが売りだと思う。やはり趣旨の中にも、基本的視点の中にも、ぜひこの自然という言葉、里山という言葉を入れていただきたい。

事務局：意見を踏まえて、骨子案等をまとめていきたい。

3) 第3次印西市環境基本計画（骨子案）について

会長：第3次印西市環境基本計画（骨子案）現状と課題等について事務局より説明を依頼する。

—事務局より、第3次印西市環境基本計画（骨子案）現状と課題等について説明—

会長：事務局の報告、説明に対して何かあればお願いします。

委員：「3. 現行計画の評価」の「2 生活環境」に、『下水道普及率』や『下水道整備率』は順調であるが、師戸川のBOD濃度や印旛沼・手賀沼のCOD濃度は基準を超過しており生活排水の流入が考えられるため、高度処理型合併処理浄化槽の普及及び適切な維持管理の推進が必要である」とある。印西市環境白書には、亀成川・神崎川のBOD濃度は基準値内で、師戸川が基準値を超過しているとあるが、前回の議事録で

は、生活排水だけでなく農業用水・肥料等の影響を指摘されていたことを踏まえると、一般家庭の生活排水だけが原因であるとは考えられない。

事務局：師戸川の値は約 7 カ所の平均値であり、基本的に印旛沼に近い箇所は悪くはなく、上流の調査地点は悪い結果が出ている。流量が少ないことや、流れが悪いという要因もあり、全ての原因が浄化槽にある訳ではない。

委員：「2. 取り巻く環境と本市の状況」、SDGs の目標 13 についてしか述べられていないが、その他の目標も関わってくると感じる。自然に関する SDGs のワークショップにおいては、全部の目標が当てはまるという結果もあり、目標 13 を限定することについてはどうかと思う。「(2)本市の状況」について、「市内における特定外来生物の定着⇒従来の自然環境・里山環境の劣化」とあるが、誤解を招く記載である。従来の自然環境・里山環境の劣化は、開発とか農地の荒廃が大きな原因であり、特定外来生物が原因であるものはごくわずかと思う。カミツキガメがいるから印西市の里山が駄目になったとはならないのではないかと。「3. 現行計画の評価」の「1 自然環境」については、「種数の維持が自然環境の保全と必ずしも『マッチしていない』」とあるが、在来種が減り、外来種が増えていることを表現したら良いと思う。「4. 意識調査の結果」の「居住地別の意識」については、新市街地（ニュータウン地区）よりも市街地の意識が高いと読めるが、事務局の説明と異なるため表現を検討して欲しい。「5. 課題」については、里山環境の保全にグリーンインフラの考え方を取り入れるという言い方ではなく、まちづくりも含めた印西市の里山保全のためには、グリーンインフラ機能を生かすという言い方が適切だと思う。課題だけでなく、全体の骨子として、趣旨の中にグリーンインフラに関する記載を入れていただきたい。

会長：グリーンインフラという言葉は、今までにあまり使われていない言葉なので、環境基本計画の中の用語解説等で説明があると良い。

委員：昨今、ペットを飼う人が増えているので、責任を持ってペットを飼うことや、フンを必ず持ち帰ることについて記載を入れていただきたい。

事務局：「4. 意識調査の結果」の新市街地とは、千葉ニュータウン中央、牧の原地区、印旛の若菰等の地域を指しており、大きな捉え方であるため、表現を検討したい。ペットに関しては、細かな話であるため、また別に議題としたい。「2. 取り巻く環境と本市の状況」の SDGs の目標 13 については、気候変動に関連する主の目標として挙げているが、一つでは不十分、特定外来生物等の表現に関する意見等についても、参考とさせていただき、骨子案をまとめていきたい。

会長：4月に国は2030年までに2013年度比温室効果ガス46%削減を表明している。また、カーボンニュートラルの宣言をしているため、2050年は実質ゼロとなる。印西市における温暖化対策も環境基本計画に明記し、国の政策に対応した内容にする必要があると考える。

委員：政府が詳細をまだ決めていないため、詳細が決まった段階で、中身を変更できるようにする必要がある。

会長：政策が変わることを見込んで、環境基本計画を作る必要がある。印西市は市のCO₂

排出量を、さらに 20 パーセント近く減らすとなると、市の車を電気自動車にするといった費用の問題が出てくることが考えられる。それらを踏まえて計画を作る必要がある。また、印西市における 2050 年ゼロカーボンシティ宣言の進捗について、具体化に向けて各課に問い合わせていると課長より聞いたので報告する。

事務局：市長からは、できるだけ早く宣言できるように指示されている。時期や方法等については、今後検討を進めたい。

会長：ゼロカーボンシティが表明されたら、環境基本計画書のトップのほうに載せていただきたい。

委員：「2. 取り巻く環境と本市の状況」に 3、4 年前に施行された建築物省エネ法を記載してはどうか。建物の省エネルギー性能について、2000 平米以上の建物は届出義務だったものが適合義務になり、今年の 4 月からは 300 平米以上の住宅以外の建物についても適合義務となる。これは、建物の環境負荷を減らすための施策であり、国内の動向に加えても良いと考える。

事務局：建築物省エネ法については、事務局で持ち帰り検討する。また、ゼロカーボンシティについては、都道府県 47 自治体中 40 自治体 85.1%が、市区町村 1741 自治体中 341 自治体 19.2%が表明している。

会長：他になければ、第 3 次印西市環境基本計画（骨子案）現状と課題等について以上とする。

会長：第 3 次印西市環境基本計画（骨子案）施策体系について事務局より説明を依頼する。
—事務局より、第 3 次印西市環境基本計画（骨子案）施策体系について説明—

会長：事務局の報告、説明に対して何かあればお願いします。

委員：気候変動で雨が多くなり、崖崩れが多発することが考えられるが、土砂災害等に関する記載がない。以前、市に補助や措置について問合せたら、「県の問題であり、市は何もできない」と言われた。10 年前は降雨前に電話や避難指示があった。

委員：やはり、印西市に特化した環境基本計画として欲しい。自然環境には、SDGs の目標 9 も入ると思う。市内における自然環境との調和とあるが、まちづくりとか企業立地とかそういう都市の関係においても、里山を生かす、あるいは里山の生態系をネットワークとして残すということを書いていただきたい。単に田園地方を残すのではなく、都市の中でも残すことがとても大切と思う。特に緑の基本計画にはかなり書いてもらった。環境基本計画にもより良いものを書いていただきたい。次に資源循環には SDGs の目標 7 のエネルギーは入ると思う。人づくりのところには、SDGs の目標 4 の教育と 17 のパートナーシップが入ると思う。自然環境の 1-1 に、台地という言葉を入れてほしい。1-2 に希少生物の保護に関する記載がない。例えば、オオモノサシトンボやトラフトンボなど、国においても希少とされる生物が印西で見られなくなってしまったため、希少生物の保護について記載してほしい。また、「在来種の保全活動の推進」とあるが、保全活動ではなく保全の推進が適切だと思う。印西市は環境白書で、生物多様性戦略を検討するとしているが、この環境基本計画の中に生物多様性戦略に取り組むような姿勢について記載して欲しい。次に 1-3 にある

「自然を生かした景観づくり」とあるがよく分からない。例えば、松戸とか市川のような都市であれば分かるが、印西市であれば自然が残っているので、自然を守る計画とか、自然を壊さないとか、具体的な言葉が必要である。次に資源循環に「プラスチックごみ対策」とあるが、プラスチックを使わないこと等を検討していく必要があるため、「プラスチック対策」とした方がいいと思う。

委員：印西市の独自性があまり感じられない。今、印西市で最も必要なことに重点を置いた書き方をして欲しい。印西市独自でまず何をやるという重点項目を記載する方向で考えていただきたい。

会長：環境基本計画は環境全体のことを考える必要があるということも踏まえる必要がある。市の考えた強化すべき箇所や内容について、われわれは意見を述べていきたい。他になれば、第3次印西市環境基本計画（骨子案）施策体系について以上とする。

4) その他

会長：令和3年度 いんざい環境フェスタについて事務局より説明を依頼する。

—事務局より、いんざい環境フェスタについて説明—

会長：実施期間は6月1日から6月30日であり、6月1日に間に合わずとも出来る限り早く情報を出していきたい。市民に向けた環境問題やごみ問題等、何かいいアイデアはあるか。

委員：印西市のホテルと関連づけて、生物多様性のパワポを動画で流したらどうか。自然探訪のときに、印西市のホテルを守るためにはどうすべきかを考えてもらうような資料がある。

会長：市民会議が市民にPRしたい内容でもいいと思う。私から提案であるが、5Gの危険性、要は電波障害の被害が最近すごく出てきており、日本は、ほとんど電波障害について対策があんまり取られてない。そういう問題点について、市民に知らせるために一種の公害として発表してもいいと思う。

委員：小学校でも、1人1台オンライン用のパソコンが配布され、子どもたちを取り巻く電磁波の環境は悪化している。日本は電磁波の有害性についてマスコミがあまり報じないこともあり、広く知られていない。諸外国では電磁波について規制が進んでいるが、日本では、公衆が被ばくする電磁波の強度についての法的規制が整備されていない。電磁波のリスクを減らすための取り組みについては、例えば、小さい子がいる家ではWi-Fiではなく、有線でネットワークをつなぐとか、赤ちゃんを抱きながら携帯電話を使わないといった日々の心掛けが挙げられる。子どもの脳は大人よりも多くの電磁波を吸収することが言われている。電磁波には、もちろん便利な面もあるが、これから携帯は4Gから5Gとなり、6G、7Gと変わる中で、子どもたちの環境リスク、健康リスクを考え、市民に広くリスクやリスク低減のための取り組みについて訴えたい。もし許可いただけるのであれば、資料を作り提出したい。

会長：今まで知られてない公害だと私は思う。日米首脳会議において、電磁波の安全対策について記載されている。携帯電話を枕元に置くと脳が刺激されて眠れなくなるなどが言われている。一般的な内容を強調するのであれば、発表しても良いと思う。

委員：反対するわけではないが、今すぐでは、環境フェスタで流すかどうか判断できないので、もう少し消化する時間をいただきたい。

委員：過去にパネルにした内容をパワポに収めて流してはどうか。

委員：去年の文化祭をオンラインで実施したが、過去の行事における写真を示す形で参加した。ビデオとかそういう動画類がなかったら、写真やパネルを流してもよいと思う。

委員：過去には、グreta・トゥーンベリさんに関連して、プラスチックごみ問題、環境保全について展示した。

会長：以前発表した内容であれば問題ないと思うので、それを準備することとする。電磁波の問題については、今後検討していくこととしたい。

委員：今回、環境フェスタが今までの形で開催できないことは非常に残念であるが、仮に、環境に関わる展示をしたいといった要望があれば、場所を貸し出す等の協力をさせていただきたい。

会長：承知した。議題に関する進行を終えたので、事務局にお返しする。

(7) その他

(8) 閉会

以上

令和3年度第1回印西市環境推進市民会議・事業者会議合同会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和3年6月25日

委員 川井 正幸

委員 小山 尚子